横浜市立 義務教育学校 緑園学園　　5　年度版　　中期学校経営方針　　（ 令和　4　～　6　年度 ）

学校教育目標	【校訓】　真のグローバル人材に　　自主　協働　創造 ＜学校教育目標＞ 〇自ら学び、考え、表現し、問題解決する力の育成（知） 〇自他の生命を尊重し、心と体の健康を向上していく力の育成（徳・体） 〇他者と協働し、よりよい生き方を創造する力の育成（公・開）

学校概要	創立　1　周年	学校長　　野口　弘之	准校長　川上　公美子	一般学級：　24	個別支援学級：　6	児童数　820　人
	2　学期制	副校長　　丹野一郎（前期）、田中光弘（後期）		一般学級：　8	個別支援学級：　2	生徒数　268　人

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	「９年間で育てる子ども像」と具体的取組
主体性、自己有用感、協働する力、 思いやりの心、表現力、思考力、 コミュニケーション力、 問題解決力、本質を見極める力	自ら学び、考え、表現し、協働して課題解決をしながら、よりよい生き方を創造する子ども ・協働して課題解決する力を育むため、ESDによる教育を推進。 ・一人ひとりの個性を伸ばし、表現力を高めるために、新教科である「表現・未来デザイン科」を実践。 ・「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」を実現するために、先進的にICTを活用。 ・思いやりの心や自己有用感、コミュニケーション力を高めるための活発な異学年交流の実践。 ・グローバルな感覚や意識を高めるために、海外の学校との交流を充実。

中期取組目標	施設一体型義務教育学校の特長を生かし、教職員が一体となって、９年間の一貫したカリキュラムによる教育活動を展開します。 ・一体化した職員の組織を充実させ、一貫カリキュラムによる教育活動を行います。 ・ESDを推進し、協働して課題解決する力を育成します。 ・「表現・未来デザイン科」や各教科等の学習活動等を通して、表現力などの資質・能力を育成します。 ・ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」を実現します。 ・一体型の施設の特長を生かした異学年交流や国際交流を活発に行い、コミュニケーション力や自己肯定感を高めます。

重点取組分野		具体的取組
特色ある教育活動	担当：教務部	①一体的な教職員の組織を構築し、「one team 緑園」として９年間の一貫カリキュラムにより教育活動を展開する。②協働的に課題解決する力を育成するためにESDを推進する。また、表現力を高め個性を伸ばすために、表現・未来デザイン科の充実を図る。③コミュニケーション力や自己有用感を高めるため、異学年交流や国際交流を活発に行う。
生きてはたらく知	担当：学習部	①９年間の一貫カリキュラムを編成し、実施・評価・改善のマネジメントを行う。②発達の段階に応じて緩やかな教科分担制に取り組む。③資質・能力を明確にし、「見通し」と「振り返り」を大切にした授業を実践する。④「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して言語活動を充実させる。⑤個別最適な学びの実現のため、ICTの活用を図る。
豊かな心	担当：学習部	①横浜市における人権尊重の教育について全教職員が理解し、すべての教育活動で取り組む。②「考え、議論する」道徳科の授業を実践するとともに、各教科等についても道徳科との関連を意識して授業に取り組む。③異学年交流等を通して思いやりの心や自己有用感を育み、ESDの推進により協働する力、課題解決力を育成する。
健やかな体	担当：体育･保健体育科 保健安全部	①生涯を通じて健康の保持増進と豊かなスポーツライフが継続できるように、体育、保健体育科の授業や学校・学年の行事、クラブ活動や部活動において、主体的・協働的な活動を工夫する。②地域等との協働により、発達の段階に応じた持続可能な部活動を実現する。③学校生活全般を通して、「食育」への意識を高める取組を行う。
特別支援教育	担当：児童生徒 特別支援部	①職員研修会等を通して、特別支援教育に関する理解を深め、全職員で共通理解を図りながら学習指導や児童生徒指導に生かす。②特別支援委員会等を通して、支援が必要な児童生徒の把握と支援計画等について共有し、支援を行う。また、SCやSSW、関係機関との連携を図るとともに特別支援教室の充実を図る。③個別の支援計画や指導計画の共有を図り、９年間一貫した個別支援学級における教育活動を行う。
児童生徒指導	担当：児童生徒 特別支援部	①児童生徒に寄り添った支援や指導を基盤に、特別支援教育の視点を踏まえて９年間の発達の段階に応じた児童生徒への支援、指導を行う。②専任、指導部を中心に報告・連絡・相談の体制を整え、迅速で適確な対応に努めるとともに、SCやSSW、関係機関との連携を図る。
キャリア教育	担当：特別活動部	①表現・未来デザイン科での学習や自分づくりパスポートの活用等を通して、新しい学習や生活をつなげたり、将来の生き方を考えたりすることができるよう、９年間の発達の段階に応じた活動の充実を図る。②後期課程では、①に加えて、実際の進路選択につながる職業講話や職場体験、進路学習・指導の充実を図る。
地域連携・学校運営協議会	担当：渉外担当	①学校運営協議会や学･家･地連の事業の充実を図るとともに、地域学校協働本部を立ち上げ、地域人材による学習活動や部活動等への支援体制を整える。②児童生徒の地域行事等への参加や参画を積極的に進める。
いじめへの対応	担当：いじめ防止対策委員会	①「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を全教職員が理解し、早期発見、早期対応ができる組織体制を構築する。②いじめ防止対策委員会を定期的に（月１回以上）開催し、未然防止、いじめの認知、早期対応、再発防止等について協議し、いじめ防止を推進する。
人材育成・組織運営（働き方改革）	担当：教務部	①メンターチームを組織し、経験の浅い教員とミドルリーダーの育成を図る。②各教科等に関わる会議を定期的に行い、情報共有を図るとともに、校内研修会や校内研究会を充実させ、授業力、指導力の向上を図る。③校内のICT環境を整え、業務の効率化を図るとともに、定時退勤日の設定など、働き方の改善を図る。

緑園学園　グランドデザイン

社会的な背景
（Society 5.0 時代）

○関係法令等
○学習指導要領
○横浜教育ビジョン 2030
○横浜市教育振興基本計画（第４期）
○横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領

校訓（school mottos）
真のグローバル人材に（Be a true global citizen）
自主　協働　創造
（initiate　collaborate　create）

学校教育目標
○自ら学び、考え、表現し、問題解決する力の育成（知）
○自他の生命を尊重し、心と体の健康を向上していく力の育成（徳・体）
○他者と協働し、よりよい生き方を創造する力の育成（公・開）

育成を目指す資質・能力
主体性、自己有用感、協働する力、思いやりの心、表現力、思考力、想像力、経験知、コミュニケーション力、メタ認知力、問題解決力、客観的に見る力、多角的・多面的に見る力、本質を見極める力

社会のニーズ
- 児童生徒の思いや願い
- 保護者や地域の願い
- 学校運営協議会
- 学・家・地連
- 関係諸機関

表現・未来デザイン科
（本物体験を通して豊かな感性や表現力を高め、個性を伸ばします。）

ICT 活用
（ICT を学びのツールとして個別最適な学びと「主体的・対話的で深い学び」を実現します。）

ESD(SDG s)
（自然や社会に関わる様々な課題を自らの問題として捉え、協働して解決していく力を育みます。）

国際交流
（オーストラリアの小中学校との交流を通して、グローバルな感覚や意識を高めます。）

異学年交流
（シームレスな環境の中で、思いやりの心を育み、自己有用感やコミュニケーション力を高めます。）

start（１年・２年）　**hop**（３年・４年）　**step**（５年・６年）　**jump**（７年・８年・９年）

＜　前　期　課　程　＞　＜　後　期　課　程　＞

経営方針の要諦

令和５年４月３日
野口

〈スローガン〉

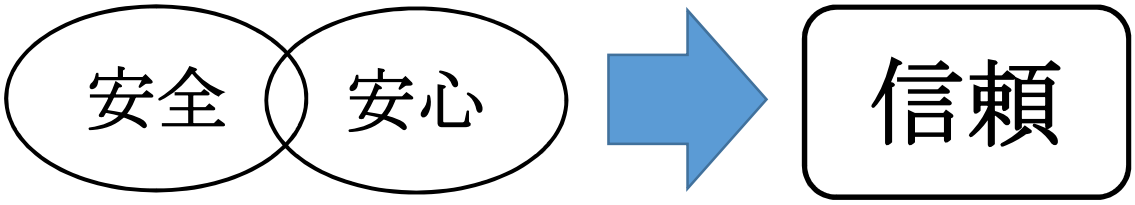
新たな学校づくり
「ONE TEAM 緑園」

〈令和５年度のポイント〉

「コミュニケーションと報告・連絡・相談」

〈教育活動の基盤〉

児童・生徒、保護者、教職員、地域



☆心がけていただきたいこと

〈子どもに対して〉
- ○ 子ども一人ひとりに寄り添うこと
- ○ 子ども自身に考えさせること
- ○ よいことは褒め、悪いことは叱ること
- ○ 授業でこそ児童支援・生徒指導
- ○ 評価は、指導の結果
- ○ あらゆる場面で学校教育目標を意識すること

〈保護者・地域に対して〉
- ○ 保護者は、教育活動の良きパートナー、支援者
- ○ 地域あっての学校

〈教職員として〉
- ○ 笑顔・あいさつ・言葉遣い・姿勢
- ○ 「報告・連絡・相談」の徹底
- ○ 考え、議論すること
- ○ クリエイティブな発想
- ○ 一つ上の視点
- ○ 仲間、「ONE　TEAM」